

全国大会を目指していた高校生アスリートの皆さんへ

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、4月26日、全国高等学校総合体育大会（インターハイ）ならびに全国定時制通信制大会の中止が決定しました。このことについて、高校生の運動部活動を支え、応援する立場を代表し、中止の決定は誠に残念であり、皆さんには大変申し訳ない想いで一杯です。特に、3年生においては、3月の選抜大会やブロック大会、県大会に続き、成果発表の機会がことごとく失われてきた競技もある中、締めくくりの挑戦の場である最高の舞台までもが失われることとなってしまいました。この結果は、誰の責に由るものではないことから、この上ない失望と、やり場のない怒りや悲しみに見舞われているのではないかと察します。かつては私もアスリートでしたが、自らの限界に挑戦する、練習成果を発表する機会が断たれた経験はありません。その意味では、この事態に直面している当事者の皆さんと肩を並べ、想いに心を寄せることがどこまでできるのかはわかりませんし、何の慰めにもならないかもしれませんが、ともに悔しさと無念をかみしめている意を酌んでいただければと思います。

ただ、今や感染予防が世の中の常識となっており、しかも、今後の見通しが立たない中においては、大会中止の事態を受け止めざるを得ません。そして、今に心を留めるのではなく、できるだけ速やかに、これからに向けて気持ちを切り換える必要があります。そこで、皆さんにお願いがあります。

まず、これまでの自分の頑張りを称えてください。昨年度の全国大会において、本県高校生の入賞数は、とりわけ中国5県の中では抜きんでいます。入賞者を含めて全国大会に出場されたチームや選手の競技力の高さはもちろんですが、地区大会からしのぎを削る県内の競技力が裾野にあってこそその成果だと思えます。昨年度まで、その一員であり、担い手であった一人ひとりの運動部員の皆さんに対し、心から感謝いたします。皆さんの頑張りの結集が、本県の競技力を支えてくれています。

また、運動部活動に取り組んできた自分の成長に自信を持ってください。社会に出て仕事をしていく上で必要となる能力として、社会人基礎力というものがあります。それは、前に踏み出す力、チームで働く力、考え抜く力なのですが、正にアスリートがそのプロセスで養い、鍛え、磨きをかけていく力そのものです。活動期間の長短はあるでしょうが、運動部活動への本気の取り組みにより、皆さんには確実に蓄積されていると私は信じています。アスリートは、終わってからの人生の方が圧倒的に長いわけですので、運動部活動で養った能力、そして人間力に自信を持って欲しいと思います。

終わりに、積極精神で生きる心を教えてくれる中村天風の著書『心に成功の炎』には、「およそ人生の一切の事件は、ほとんどそのすべてが自己の心の力で解決される」とあります。虚心平気の心境で、今こそ前向きになるような言葉を唱え、自己暗示しながら前に進んでいきましょう。アスリートの強みは、自己のコントロールに長けていることです。皆さんの今後に期待し、心から背中を押していきたいと思えます。

令和2年4月27日

岡山県高等学校体育連盟
会長 神田 亮 一